

1. 最近のニュースや話題から徒然に

▶ 尋常ならぬ豪雨水害（被害）とBCP
先週に突然として発生した福岡県朝倉市周辺と日田市での豪雨水害。その被害の全容を知るにつれ、自然災害の猛威に私たちは無力感を感じざるを得ません。

さて、平成 23 年（2011 年）3 月 11 日に発生した東日本大震災とその直後の福島第一原発事故。平成 10 年前後から、日本を問わず全地球的に発生する自然災害やテロ事件等々の予想外大事件に対し、企業がどのような対処をしていくべきかという議論が重ねられてきました。その一つの解答が、BCP（事業継続計画）の策定と運用です。

企業は地域社会の一員です。その使命には未来まで事業を継続させるということがあるということは、経営者以外の人々にも理解できることでしょう。

東北大震災の際、日本の自動車メーカーは相協力して被災したサプライヤーの復旧を支援しました。その結果、被災企業は短期間に基幹部品の供給を再開することができたのです。今あらためて思い出すのは、その当時のメディアが「サプライチェーンの維持・確保をどうするのか」という課題を巷間に問い質したことです。

経営規模の大小を問わず、企業は多くの取引を通じて網の目のようなサプライチェーンを形成しています。若しこの網の一つに綻びが生じるとサプライチェーンは強い打撃を受けてしまうでしょう。自社を中心にしたBCPの作成を考える時を今回の水害が教えてくれたとも言えます。BCPは次の事項が入っている計画です。

① 予想外の災害が発生したと仮定したときの被害の程度。② 復旧するのに要する時間、費用、労力。③ 取引先が被害にあった時の対応。④ 社内外へ正確な情報を伝える連絡網。⑤ 本格的な復興に向けての計画表。⑥ 計画が稼働する為の訓練計画とその実施。⑦ 定期的に見直しのスケジュール化。

2. 継続的な繁栄（継栄）を目指して

□ 「素直な心」について考える

経営の神様と呼ばれた松下幸之助の著書に「素直な心になるために」があります。松下翁の著書は数多くありますが、“素直”という心の置き方に焦点を当てた本は余り例がないのではないのでしょうか。

松下翁は家電事業で大成功を収めました。毎日就寝する際に「今日も素直な気持ちで仕事をしてきたか、社員や取引先と接したか」と自分に問い掛けていたそうです。外野席から松下翁を遠めで観れば、心優しい好々爺のように感じられます。しかし、毎日毎夜「今日一日、素直に過ごせたか」と自問したというのですから、社員には厳しい一面があったのでしょうか。

私は松下翁には遠く及ばない田舎のコンサルタントですが、毎日反省の日々です。コンサルタントとして失敗も沢山してきました。その場面では「うっ！」と思う瞬間もあります。しかし、この実際を気付かせてくれる相手（その中には家族もいますが）に感謝を忘れないようにしたいと自分に言い聞かせています。「素直な心」になれば、自分の周囲から飛び込んでくる情報の量と質が変わってくるかも知れません。

□ 「ルーティーン」について考える

最近話題に上らなくなったラグビー日本代表の五郎丸のキックを放つ前の仕草。同じ仕草を繰り返すことで、体に覚えさせ、無意識の中で定型にかつ完璧な動作を行うことができる。これがルーティーンの効果ということでしょうか。

最近読んだ本で「成功している人はなぜ神社に行くのか」（八木龍平著）があります。この本はベストセラーらしく日経新聞でも広告が掲載されています。宗教の売込みではありませんが、上述の「素直な心」を意識し、所定の所作を繰り返すことで心身の安寧が得られる。私はこの本から一途に信じ切り、繰り返す大切さを学びました。